

庄司紗矢香

ヴァイオリン

© Laura Steven

コレリニ：ヴァイオリン・ソナタニ短調作品5の12（ラ・フォリア）
ロカテリニ：ヴァイオリン・ソナタヘ短調作品6の7（墓前にて）
ジェミニアーニ：ヴァイオリン・ソナタニ短調作品4の8
タルティーニ：ヴァイオリン・ソナタト短調作品1の10（捨てられたディド）
タルティーニ：ヴァイオリン・ソナタト短調（悪魔のトリル）

ほか

Sayaka
Shoji

Nasato
Suzuki

チェンバロ

鈴木優人

© Marco Borggre

夢のデュオ
誕生。

水戸芸術館
ART TOWER MITO

2027 **1.24** [日]

14:30 開場 | 15:00 開演

水戸芸術館
コンサートホールATM

料金（全席指定）

一般6,000円

U-25（25歳以下）2,000円*1

チケット発売：2026年9月26日[土]

財団運営維持会員先行予約：9月22日[火]*2

水戸芸術館メンバーズ先行予約：9月23日[水]*2

*1：U-25チケットの取り扱いには水戸芸術館のみ

*2：先行予約は電話・WEB予約のみ

| 会員先行予約がありますので、一般発売日の時点で
水戸芸術館取り扱い分が終了している場合があります。

庄司紗矢香 & 鈴木優人

夢のようなデュオの誕生を水戸芸術館で祝福する

庄司紗矢香は、あらためて紹介するまでもなく、パリを拠点にヨーロッパで活躍を続けるヴァイオリニストであり、伝統的な西洋音楽のレパートリーにおける突き詰めた解釈と美しく彫琢された演奏で、第一級の評価をすでに揺るぎないものにしている音楽家である。しかし、その鋭く澄んだ眼は、つねに見たことのない景色を求めている。今回のターゲットはバロック、それもJ.S. バッハと同時代のイタリアの作曲家たちによって書かれたヴァイオリン音楽に定められた。

庄司が選んだ共演者は、鈴木優人。音楽ファンとしては、「庄司紗矢香 & 鈴木優人」というデュオを夢として想い描くことはできたかもしれないが、それがほんとうに実現することに、胸の高鳴りを抑えることができない。しかし、落ち着いて考えてみれば、チェンバロ奏者としての技量のみならず、古楽への深い造詣、演奏法に対する飽くなき探求と創造性の発揮などの点で、鈴木優人こそ、バロックに眼を向ける庄司が求めている最高の共演者と言えるだろう。

二人が日本での活動の拠点の一つとしている水戸芸術館で、夢のようなデュオの誕生を目撃し、祝福したい。

庄司 紗矢香 (ヴァイオリン)

Sayaka Shoji, Violin

唯一無二の芸術的多様性とレパートリーへの緻密なアプローチで、国際的に認められるヴァイオリニスト。その音楽的言語に対する非凡な洞察力は、ヨーロッパと日本という二つの背景の混合に由来する。

東京に生まれ、3歳でイタリアのシエナに移住。キジアーナ音楽院とケルン音楽大学で学び、14歳でルツェルン音楽祭にて欧州デビューを飾った。1999年にはバグニーニ国際コンクールで史上最年少優勝を果たし、以来、ゾービン・メータ、マリス・ヤンソンス、ユーリ・テミルカーノフら巨匠指揮者や、ベルリン・フィル、ニューヨーク・フィルなど世界屈指のオーケストラと共演を重ねている。

2025/26年シーズンは、ラハフ・シャニ指揮イスラエル・フィル、サンフランシスコ響等への再登場に加え、カメラータ・ザルツブルグ、モンテカルロ・フィル等へデビュー。また、マルタ・アルゲリッチやミッシェル・マイスキー、フランソワ・ルルーといった巨匠とも共演。前シーズンにはアラン・アルティノグロ指揮フランクフルト放送響との共演が評価され、第37回ミュージック・ベンクラブ音楽賞を受賞している。

室内楽ではジャンルカ・カシオーリとの長年のパートナーシップに加え、多くのトップアーティストと国際的な舞台でリサイタルを行っている。芸術活動は音楽に留まらず、勅使川原三郎、安藤忠雄、杉本博司らとコラボレーションを行うほか、視覚音楽プロジェクト「Synesthesia」を展開。

これまでドイツ・グラモフォン等から11枚のアルバムをリリース。ユーリ・テミルカーノフ指揮サンクトペテルブルク・フィルとの録音や、メナヘム・プレスラーとのリサイタル・アルバムなどが含まれる。近年では、長年の共演者であるジャンルカ・カシオーリとのベートーヴェン：ソナタ全集、およびモーツァルト：ソナタ集をリリースしている。

2016年、芸術分野で顕著な影響を及ぼした者に与えられる「毎日芸術賞」を受賞。2012年には日経ビジネスの「次世代を創る100人」に選出された。

使用楽器は上野製菓株式会社より貸与されている1729年製のストラディヴァリウス「レカミエ」。

水戸芸術館では2005年以来、度々リサイタルを行うとともに、専属楽団である「新ダヴィッド同盟」の中心メンバーとしても活躍している。



© Laura Stevens

鈴木 優人 (チェンバロ)

Masato Suzuki, Harpsichord

バッハ・コレギウム・ジャパン (BCJ) 首席指揮者、関西フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者、アンサンブル・ジェネシス音楽監督。読売日本交響楽団指揮者／クリエイティヴ・パートナーを2026年まで6年間務める。NHK交響楽団等と共演するほか、海外ではドイツ・ハンブルク交響楽団、オランダ・バッハ協会等に客演。2025年のBCJヨーロッパ公演にて自身の補筆校訂によるモーツァルト《レクイエム》をパリ、マドリッドなど7都市で指揮。11月にはパリ管弦楽団と初共演を行い、現地で好評を博した。

オペラの分野では鈴木優人プロデュース・BCJオペラシリーズでモンテヴェルディ：歌劇《ポッペアの戴冠》、ヘンデル：歌劇《リナルド》（第19回佐川吉男音楽賞）、歌劇《ジュリオ・チェーザレ》を指揮。2022年に新国立劇場に《オルフェオとエウリディーチェ》（勅使川原三郎新演出）で初登場。Bunkamura Produceのモーツァルト・オペラシリーズでは、《魔笛》（2024年/美術：千住博）、《ドン・ジョヴァンニ》（2025年/美術：杉本博司）に続き、本年2月にBCJと共に上演した《フィガロの結婚》（美術：隈研吾）が、過去2公演を凌ぐプロダクションとして高く評価された。「古楽の楽しみ」にレギュラー出演するほか、テレビ朝日系列「題名のない音楽会」などメディア出演も多い。録音はBCJとのJ.S. バッハのチェンバロ協奏曲集 (BIS)、タメスティとのデュオ (Harmonia Mundi)、J.S. バッハの平均律クラヴィア曲集第1巻、第2巻 (BIS) などがある。作曲・編曲はもとよりバッハ作品の復元も手がける。ブルーノート東京にも定期的に出演するなど、その活動に垣根はなく、各方面から大きな期待が寄せられている。

東京藝術大学卒業および同大学院修了。オランダ・ハーグ王立音楽院修了。令和2年度（第71回）芸術選奨文部科学大臣新人賞、第18回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第18回ホテルオークラ音楽賞、第29回（2021年度）渡邊暁雄音楽基金音楽賞受賞。調布国際音楽祭エグゼクティブ・プロデューサー、九州大学客員教授、神戸松蔭大学客員教授。

水戸芸術館では2024年より「J.S. バッハをとりまく音楽のシリーズ」（全4回）を自らプロデュースし、出演しているほか、水戸市民会館開館記念事業のBCJ《マタイ受難曲》公演を指揮した。

X / @eugenesusuki Facebook & Instagram / masatosuzukimusic

© Marco Borggreve

チケット取り扱い：水戸芸術館（9:30～18:00 | 月曜休館）

◎エントランスホール内チケットカウンター

◎チケット予約センター TEL 029-231-8000

◎ウェブ予約 <https://www.arttowermito.or.jp/ticket/>

e+ (イープラス) <https://eplus.jp/> (PC・携帯)

かわまた楽器店 TEL 029-226-0351

ヤマハミュージックジャパン水戸店 TEL 029-244-6661 (店頭販売のみ)

- 未就学児のご入場はご遠慮ください。
- 公演の内容や出演者は、変更になる場合があります。
- 公演中止の場合を除き、一度購入されたチケットの払い戻し、交換等は出来ませんのでご了承ください。
- 車椅子のお客様、盲導犬、介助犬同伴のお客様は、座席へのスムーズなご案内のため、予約時にお知らせください。

水戸芸術館

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL 029-227-8111 <https://www.arttowermito.or.jp/>

